

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771800980		
法人名	医療法人 日新会		
事業所名	ケアシレッジ九条グループホーム事業所ナイスホーム九条(6F)		
所在地	大阪市西区九条1丁目21-24		
自己評価作成日	平成22年5月1日	評価結果市町村受理日	平成22年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者お一人お一人がその人らしく安心して毎日を送れるように支援しています。自分の居場所を見出し、自分らしく生活ができるように、出来る限り、ご家族様、ご本人の要望に添えるようにしています。また、年齢と共に身体能力も落ち、病状的にも悪化される方も増えてきています。現在はターミナルケアを念頭に入れスタッフも研修に参加するなどして、より良いケアができるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771800980&SCD=320
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年6月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭生活のような雰囲気の中で、その人らしく過ごして頂き、また住み慣れた街で触れ合うシルバーライフを送って頂くために、私達は利用者様の生活・生き方を精一杯支援します。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域の行事(夏祭り・持ちつき大会・ふれあい喫茶)等に参加している。屋上菜園で収穫した野菜を近所にお裾分けしたり、保育園児と交流する機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のネットワーク委員、民生委員を通し介護が必要な方への働きかけを行っています。今後、必要性がある方には介護指導など行っていきたくと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の規定を作成し、自治会長・福祉委員長・民生委員・地域包括支援センター・利用者・家族などが出席して二ヶ月に一回開催している。ホームの現状を報告し意見や要望などを聞いて議事録を作成、業務の改善に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者を頻りに訪れ報告や相談を行い、市主催の研修会や事業者連絡会に参加している。行政の依頼で実習生を受け入れたり、小地域ネットワークの見守り協力や、ボランティア派遣を要請している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間は施錠、日中は出来る限り開錠。開いたらメロディが流れるようにし利用者の出入りが確認できるようにしている。命に関わるような事故が考えられる時のみ家族の同意の下で離床センサーなどの設置を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内・外の研修に参加し、情報を共有することにより虐待に対する意識を持ち、そのような事が無い様に職員全員で注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を活用されている方が居ないが、必要になった時は関係者と話し合う機会を持ち、理解・必要性を学び活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に契約時、契約内容及び解約時の説明等、契約書類の内容を解かり易く説明すると共に、疑問・不安に思うこと等、その時に理解・納得出来る様に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会や家族の面会時、家族だけが参加する場を設け気軽に話して貰える雰囲気をつくり、意見や要望を聞いて記録。職員会議で話し合い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回、各階職員を集め合同で会議を開催し運営に関しての意見・提案を話し合う場を設けたり、必要に思った時は個別の意見も聞くようにし、常に柔軟に捕らえ、日々の業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から勤務時等の様子を見ている。必要に応じてアンケートを取り、個人面接等を行う等して職員の能力を引き出せるように支援。テーマを決めて勉強会を行う等し、向上心を持って働けるよう職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回法人内各事業所合同の研修を実施し、研修記録は回覧して共有。外部研修は勤務調整や費用援助を行い支援し、研修報告書を提出し内部研修に活かしている。管理者は実習を伴う研修で業務に関する指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪認知症高齢者グループホーム協議会やネットワーク委員会に加入、研修会参加や情報を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。又、他のグループホームからの実習を受け入れ、こちらからも見学に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は常に利用者とコミュニケーションを取り、会話や行動を観察していく中でニーズを読み取り、支援していく事で本人にも安心してもらえるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の中で、十分に情報交換等を行なっていながら信頼関係を築いていき、安心してサービスを受けていただくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中の会話から主たるニーズを見極め、本人と家族と話し合いながら、ニーズに合った支援が出来る様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭生活の雰囲気や心掛け、一緒に生活する家族のように教えて貰う立場をつくり、感謝の気持ちを伝えて利用者との信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族に普段の生活の様子を報告したり、家族の思いを聞いたり、今までの生活歴を聞いたり等してコミュニケーションを図っていきながら共に本人を支えていけるよう信頼関係を築く努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様本人や家族から生活歴などを情報集収し、馴染みの人との交流や場所へ行く等して支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から利用者同士の関係を把握し、利用者同士が良好な関係を築いていけるよう見守り・支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居、入院退所した利用者さんが居れば、その後の情報集収を行い必要に応じて相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族から今までの生活について情報集収、日常生活の中で関わりながら、どう暮らしたいか意向の把握に努める。様子観察・記録を行い職員全員が共有し本人の視点に立って対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中での本人との関わりから、これまでの生活歴や習慣等を把握したり、家族の面会時等からも情報集収に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で観察を密に行い、本人の心身の状態や生活リズム等を把握し、よりよいケアが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じサービス担当者会議を開き(最低でも月に一回)、職員間で情報を共有し介護計画を作成。又、本人・家族からも意見をもらい、現状に即した介護計画に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各自ファイルがあり、日々の様子・心身の状態等を記録。職員間で情報を共有し実践や介護計画に繋げられるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日に個別に外出する等の支援を行い、行きたい所・やりたい事等希望があれば家族・利用者・職員で話し合い、出来る限り希望に沿えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入して、地域の行事(夏祭り・持ちつき大会・ふれあい喫茶)等に参加したり、必要に応じて近くの整形外科や眼科等に受診し、心身ともに充実した暮らしが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の同意の下、協力医療機関にて内科・歯科、必要に応じて訪問リハビリ・精神科の往診を行っている。基本徒歩圏内で整形外科・眼科・耳鼻科の通院を支援。遠方の病院受診は家族で同行している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に介護職は本人の心身の状態観察を行い、変化があれば速やかに看護職に報告。適切な看護や受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の総合病院と連携し入院受け入れ態勢を整えるよう努め、入院中も情報交換を行ない早期に退院出来る様、職員の介護技術勉強会・居室内の整備等を行い、退院後も適切な対応が出来るように態勢を整えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応は「看取りの指針マニュアル」により職員で方針を共有する。医療提携で24時間対応の体制をとっている。終末期では利用者や家族、主治医と話し合い「ターミナルケア同意書」に医師・施設側・利用者(代理人)・家族等が記名捺印し、意思確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に行ったり、勉強会を開くなどして高齢者が罹りやすい病気や怪我の対応を学び実践につなげられるように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員には避難訓練を行い、緊急時速やかに対応出来る様にしている。地域とも協力が得られるようお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や職員会議等で、各利用者様の自尊心やプライバシーを尊重する言葉かけや対応を行うよう話し合い徹底している。個人情報の保護に関する規定を定め慎重な取り扱いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活全般において、利用者様が決定権を持ち無理強いしないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特にカリキュラムは設けていない。レクリエーションの時間はあるが、利用者様の意思を尊重し自分に合った生活が送れるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の衣類は利用者様本人が選び、お化粧したりしてお洒落を楽しんでいる。上手く出来ない人には職員と一緒に衣類を選んで気持ちよく過ごせるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者の希望を取り入れた献立にし、買い物と一緒にいき、調理や後片付け等出来る事を手伝って貰っている。職員も一緒に介助をしながら食事をしている。菜園で採れた野菜も使い料理も行う。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を確認して記録を行い、摂取不足のないようお茶やゼリー、必要であれば捕食などを提供している。献立を作成する際栄養バランスに気をつけ、施設の栄養士にも相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声をかけリビングにある洗面所で個々に応じて口腔ケアを行い口腔内の清潔を心がけている。同時に口腔内の観察も行い、必要ならば歯科往診時に診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り各自の排泄パターンを把握、トイレ誘導により出来るだけ失禁を減らすようにしている。又、トイレ誘導の声かけも自尊心を傷つけないよう配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取量を確保する為ゼリーで対応したり、屋上へ行ったり近くを散歩したり等、出来る範囲で軽い運動を取り入れ便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があり体調も問題なければ毎日でも入浴は可能。現在、2～3日一回その日の体調に合わせて入浴を行っている。本人が気持ちよく入浴できるようタイミングを図り、場合によっては家族様にも協力して頂き入浴している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれの就寝時間を把握し、気持ちよく眠りにつけるよう支援している。日中も昼寝の必要な方には休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬ケースに薬の情報を明記。臨時薬があれば日誌に記録・申し送りを行い職員全員に周知徹底と服用後の状態観察を行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事全般を職員と一緒に出来る範囲内で手伝って頂いたり、商店街へ食材の買出しを手伝って貰ったり等役割を持って頂いている。又、フラワーアレンジメント、ボランティアの方や保育園児達による出し物で楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の外出頻度を把握し、その日の体調を考慮しながら出来るだけすべての利用者様が平等に外出出来るようにしている。又、毎月の行事で利用者様と相談し外食・ドライブ・花見など様々なイベントを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金がないと不安な利用者様には一定額のお金を持ってもらい安心していただいている。購入希望があれば一緒に買い物に行ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等の要望があれば掛けてもらっている。暑中見舞いや年賀状も家族や友人に出されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は汚れたら直に掃除を行い清潔を保つようにしている。居間は広く明るく外からの光も十分入っている。又、天候に合わせて職員が空調管理を行っている。利用者様が作った作品や行事の写真を展示、玄関にはフラワーアレンジ等を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、気の合う人同士で過ごせるようしたり、共用の和室もあり、自由に入出入り出来る様にしている。リビングから離れた所にソファを置き、一人になってくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口には表札を掛け、ドアには本人好みの写真やイラスト等を貼っている。クローゼット・洗面台は備え付け。ベッド・ダンス・テレビ・衣類等使い慣れた物を持ち込んで頂き、その人らしく落ち着いて生活出来る様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じてその都度、危険の回避に注意している。また、自分の居場所を見出すことでゆとりの時間を持つことが出来、さらにはその方の能力に応じた関わりを持つようにしている。		